

第3次鎌倉市総合計画基本構想 新旧対照表（該当部分のみ抜粋）

現 行	修正後（案）
<p>○第3次鎌倉市総合計画基本構想</p> <p>第3章 基本構想の基礎的な指標</p> <p>1 人口</p> <p>(1) 鎌倉市の人口は、平成14（2002）年以降、増加傾向で推移してきましたが、推計では、平成26（2014）年をピークに減少傾向に転じ、目標年次の平成37（2025）年には、17万人を下回るものと予測しています。また、年少人口・生産年齢人口の減少や高齢者の増加による少子高齢社会がさらに進展する見込みとなっています。</p> <p>こうした人口の変化は、市税収入の減少や扶助費の増加につながることから、人口の年齢構成バランスに配慮し、急激な減少を防ぐ人口誘導を図ります。</p>	<p>○第3次鎌倉市総合計画基本構想</p> <p>第3章 基本構想の基礎的な指標</p> <p>1 人口</p> <p>(1) 鎌倉市の人口は、<u>平成17年（2005年）以降、17万人台を維持してきましたが、今後は減少傾向が強まり、</u>目標年次の<u>令和7年（2025年）には16.6万人程度となる</u>ものと推計しています。また、年少人口・生産年齢人口の減少や高齢者の増加による少子高齢社会がさらに進展する見込みとなっています。</p> <p>こうした人口の変化は、市税収入の減少や扶助費の増加につながることから、人口の年齢構成バランスに配慮し、急激な減少を防ぐ人口誘導を図ります。</p>